

越前町立織田中学校 いじめ防止基本方針

令和8年4月1日 策定

本校は、教育目標「夢に向かって主体的に生きる生徒の育成」の具現化にむけて、すべての生徒が安心して学校生活を送ることができ、授業や生徒会活動、行事等に主体的に参加・活躍できる学校をめざしています。

いじめは、いじめを受けた生徒の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長および人格の形成に重大な影響を与えるだけでなく、その生命または身体に重大な危険を生じさせるおそれがあります。いじめをなくすには、「いじめは絶対に許されない」「いじめは卑怯な行為である」ことを生徒が十分に理解することが大切です。

この基本方針は、本校におけるいじめ防止に係る基本的理念および責務を明らかにするとともに、いじめ防止および解決を図るための基本となる事項を定めることにより、生徒が安心して生活し、学ぶことができる環境をつくるためのものです。

1 いじめの防止等の対策に関する基本理念

- (1) 本校は、一人一人が互いの人格の尊厳を大切にし、相互に尊重し合う社会を実現するため、生徒が自分自身を大切にし、他者を思いやり、互いに助け合う「心の教育」を推進します。そして、そうした心に従い、勇気をもって行動できる生徒を育てることを重視します。
- (2) 本校は、すべての生徒が、まず、どんなことがあってもいじめを行わないこと、いじめを認識しながらこれを放置しないこと、いじめが、いじめられた生徒の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為であることについて、十分に理解できるように努めます。
- (3) 本校は、生徒が安心して生活し、学習その他の活動に心豊かに取り組むことができるよう、いじめをなくすことを目的に、越前町、越前町教育委員会、家庭、地域の関係者と連携して、いじめの防止等の対策に全力で取り組みます。

2 いじめの定義と判断

- (1) 「いじめ」とは当該生徒と一定の人間関係にある他の生徒が行う心理的または物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）により、当該行為の対象となった生徒が心身の苦痛を感じているものを指します。
- (2) けんかやふざけ合いであっても、見えない所で被害が発生している場合もあるため、背景にある事情の調査を行い、生徒の感じる被害性に着目し、いじめに該当するか否かを判断します。

3 いじめの防止等のための具体的取組

(1) 「思いやりや助け合いの心を持って行動できる」子どもを育てる教育

○ほめて伸ばす教育

生徒の多面的な能力を引き出し、ほめて伸ばす教育を進めることにより、自分を大切にし、生徒同士が互いのよいところを認め合う人間力を高めます。

○人権教育の推進

人権教育を計画的に進め、発達障害のある生徒への理解等、自分だけでなく、他の人の大切さも認めることができる態度を育てます。

○体験活動の推進

集団宿泊体験や校外学習など、生徒が人と触れ合い、人間関係をつくる場を設定し、生徒の絆を強め、互いに認め合い助け合う心を育てます。

○道徳教育の推進

道徳の授業を充実させ、発達段階に応じた指導を計画的に行うことにより、思いやりの心や認め合い学びあう心、感謝の心を育てます。

○ポジティブ教育の推進

ポジティブ教育（ソーシャルスキルトレーニング、ピアサポート、レジリエンス）やエンカウンターを通して生徒の自己有用感や集団への適応感を高めます。

(2) 学校評価への位置づけ

○いじめの防止等のための取組（環境作り、マニュアルの実行、アンケート、個人面談・校内研修の実施等）を評価し、学校におけるいじめの防止等のための取組の改善に努めます。

○評価項目

【教職員】

- ・生徒の人権意識が高まるように心がけている。
- ・生徒が自己肯定感を高め、自尊感情を育むように心がけている。
- ・Home&School等で、いじめ防止の取組みを生徒や保護者に伝えている。
- ・生徒や保護者が相談しやすい環境づくりに努めている。
- ・いじめを早期発見できるよう、定期的にアンケートや面談を実施している。
- ・生徒に不適切な言動があった場合、その場で注意・指導している。
- ・いじめの行為が疑われる場合、一人で抱え込まずに、速やかに学校の「いじめ対策委員会」に報告している。
- ・いじめに係る情報が学校の中で共有され、解消に向けて組織的に対処している。
- ・マニュアルや年間行動計画にしたがって適切に対応している。
- ・いじめ防止等について、校内研修に取り組んでいる。

【生徒】

- ・いじめの行為を見聞きした場合、速やかに先生や保護者等に伝えることを心がけている。

- ・学校（先生やスクールカウンセラー）は、悩みや不安を相談しやすい。
- ・学校以外にも相談できる場所があることを知っている。
- ・アンケートや面談を通して、悩みや不安を先生に伝えている。

【保護者】

- ・学校は、子どもの気がかりなことを相談しやすい体制を整えている。
- ・学校は、自校の教育相談担当者を含め、複数の相談機関を紹介している。
- ・学校は、いじめ防止等のための取組を学校ホームページ等で生徒や保護者に伝えている。
- ・学校は、アンケートや面談を定期的実施する等、子どもの不安等を把握する取組を行っている。

（3）いじめの未然防止

以下の取組により「魅力ある学校づくり」を推進する。

○「いじめ対策委員会」の設置

いじめ対策について、指導の方策を協議し、具体的な活動を計画・実践します。

○授業改善

すべての生徒が学びを実感できる授業のあり方について、公開授業や授業研究を行い、生徒が「分かる楽しさ」や「できた喜び」を実感できる授業づくりに努めます。

○いじめの起きない学校・学級づくり

異年齢交流活動を行い、生徒が安心して過ごせる「心の居場所づくり」や生徒が主体となって互いに認め合い励ましあう「絆づくり」を進めます。

○生徒の主体的活動の充実

学級活動や生徒会活動等を活用して、生徒の主体的な活動によるいじめ防止等の取組を推進します。

○いじめを許さない気運醸成

普段から集団全体にいじめを許さない気運醸成を図るなど、児童生徒が傍観者にならないように、具体的な行動を起こすことや児童生徒同士で支え合うことができる環境づくりに努めます。

○開かれた学校づくり

「開かれた学校」の観点に立ち、いじめへの対処方針や年間指導計画等、いじめ防止策に関する情報を積極的に公表し、保護者や地域住民等の理解や協力を求めます。

○インターネットや情報機器に関する指導

インターネットや情報機器（スマートフォン・携帯電話・タブレット・ゲーム機等）の利用について、家庭でのルール作りを推奨するとともに、生徒や保護者が危険性や注意点等を考える機会を設けます。また、国の「教育の情報化に関する手引き」等を活用し、情報モラル教育の充実に努めます。

○特に配慮が必要な生徒への支援・指導

特に配慮が必要な生徒について、日常的に、当該生徒の特性を踏まえた適切な支援を行うとともに、保護者との連携、周囲の生徒に対する必要な指導を組織的に行います。

(4) いじめの早期発見

○積極的ないじめの認知

生徒の表情やしぐさをきめ細かく観察するとともに、わずかな変化に対してもいじめの兆候ではないかとの疑いを持ち、積極的にいじめを認知するよう努めます。

○言葉以外のサインの察知

児童生徒の「大丈夫」「何でもない」という言葉の裏に、児童生徒が真に伝えたいと思っていることが隠れていないか、本音を言語化できていないのではないかなど、立ち止まって考えることにより、いじめ等の早期発見に努めます。

○自己チェックの活用

生徒が日々の生活を振り返るための自己チェックを行い、それを学級担任や養護教諭が確認することにより、いじめ等の早期発見に努めます。

○アンケートの実施

定期的にいじめアンケートを生徒と保護者、教員に行い、いじめ等の問題の早期発見に努めます。

○教育相談体制の充実

学級担任による定期的な個別面談を通して、学習や人間関係の悩み等を聞き取ると同時に、適切な助言と学級全体への働きかけにより好ましい人間関係の構築を図ります。

○いじめに係る情報の記録

いじめに係る情報を適切に記録します。

○家庭や地域との連携

家庭訪問や電話連絡などを通して、日ごろから保護者との情報交換を密にするとともに、保護者に対するいじめ調査の実施や地域の住民や関係団体との連携を進めることにより、家庭や地域における生徒の変化を見逃さず、いじめ等の早期発見に努めます。

○いじめ対策委員会への報告

いじめを発見し、または相談を受けた場合、速やかにいじめ対策委員会に報告し情報を共有します。

(5) いじめの事案対処

○いじめの訴えがあった場合やいじめの兆候を発見した場合には、いじめられた生徒の立場に立って適切な措置をとるとともに、特定の教員が抱え込むことなく速やかに情報を共有し、組織的な対応につなげます。

- いじめの事実を確認した場合は、管理職や生徒指導主事が強いリーダーシップを発揮し、速やかに「いじめ対応サポート班」を組織して当該事案への対応策を協議し、個別面談や情報収集等の役割分担を決めてチームで対応します。
- 直ちに、いじめを受けたあるいは報告した生徒の心のケアを行い、安全・安心を確保するとともに、いじめたとされる生徒に対して事情を確認したうえで、成長支援という立場に立って、保護者にも協力を要請し、適切かつ継続的な指導を行います。
- 必要に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、スクールサポーター等の専門家、警察や児童相談所、地方法務局、医療機関、民生児童委員等の関係機関と連携を取りながら、解決に向けた最善の方法を講じます。
- いじめ（SNS上のものを含む）の中には、犯罪行為として取り扱われるべきものや、児童生徒の生命、身体または財産に重大な被害が生じるようなものが含まれることがあるため、これらについては、早期に警察に相談・通報のうえ、警察と連携した対応をとります。

（6）いじめの解消

- いじめの解消については、少なくとも次の二つの要件を満たしているか確認するとともに、必要に応じ、他の事情も勘案して判断します。
 - ①いじめに係る行為が止んでいる状態が、相当の期間継続していること。この相当の期間とは、少なくとも3か月を目安とします。
 - ②被害生徒が心身の苦痛を感じていないと認められること。これは、被害生徒本人及びその保護者に対し、面談等により確認します。

（7）いじめによる重大事態への対処

- いじめにより、「生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑い」や、「相当の期間学校を欠席すること（30日間を目安とする）を余儀なくされている疑い」があるときは、国のいじめ防止基本方針やガイドライン等に当たって、次の対処を行います。
 - ・重大事態が発生した旨を、市町教育委員会を通じて地方公共団体の長に速やかに報告します。
 - ・学校が調査主体になる場合は、調査組織の設置、事実関係調査、関係保護者への情報提供、越前町教育委員会への調査結果の報告を速やかに行います。
 - ・市町が調査主体になる場合は、事実関係を明確にするための調査に協力します。

4 いじめの防止等のための組織

（1）いじめ対策委員会

校長のリーダーシップの下に、「いじめ対策委員会」を定期的（月1回以上）に開催し、組織をあげていじめ未然防止に取り組む指導体制を確立します。

いじめの未然防止について、日ごろからの指導の方策を協議し、職員会議や主任

会において方針や対策の共通理解を図っていきます。

(構成員) 校長・教頭・教務主任・生徒指導主事・学年主任・養護教諭

- (活動)
- ・いじめが起きない学校・学級づくりのための「心の居場所づくり」に向けた協議
 - ・生徒間の「絆づくり」のための計画的な教育活動
 - ・定期的な面談やアンケートの実施
 - ・いじめ発見のためのチェックシステムの工夫と迅速な情報交換、連絡体制づくり
 - ・校内研修や学級活動のための資料収集や資料作成
 - ・教職員、生徒、保護者等に対し、学校いじめ防止基本方針について周知
 - ・教職員に対し、『生徒指導提要（令和4年改訂）第4章 いじめ』について周知
 - ・学校評価への位置づけ、および学校いじめ防止基本方針に基づく取組の点検
 - ・いじめの認知
 - ・「いじめ対応サポート班」の設置
 - ・教育委員会や関係機関等との連携
 - ・いじめ対応サポート班等からのいじめに関する情報の集約と共有化
 - ・学校いじめ防止基本方針の見直し

(2) いじめ対応サポート班

校長のリーダーシップの下、「いじめ対応サポート班」を組織し、職員会議において方針や対策の共通理解を図るとともに、越前町教育委員会をはじめ関係機関と連携し対応する体制を確立します。

(構成員) 校長・教頭・教務主任・生徒指導主事・学年主任・学級担任・
教育相談担当 部活動顧問・養護教諭・スクールカウンセラー等

- (活動)
- ・当該いじめ事案の対応方針の決定
 - ・関係者からの聴取等による情報収集、記録
 - ・いじめ対策委員会への報告、連絡、相談
 - ・被害生徒やその保護者への継続的な支援
 - ・加害生徒への指導やその保護者への説明
 - ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門家 や警察、児童相談所等との連携

(3) 組織図 (P 7 参照)

5 いじめ対策の年間行動計画 (P 8 ~ 11 参照)

【組織図】

